

学校概要

1 生徒と地域の状況

礼文島は、豊かな自然と水産資源、そしてそこに暮らす人々の、素朴であたたかな人間性で広く知られた、日本最北端の島である。眼下に礼文の玄関口・香深港を、彼方に秀峰利尻富士を望む校舎(H26改築)で、生徒は次代の担い手となるべく、自立と共生の基礎を学んでいる。

古くから学校と地域のつながりが深く、教育への理解と協力が根付いた礼文で、生徒は感謝の気持ちを胸に明るく、元気に生活している。また、保小中高の教育連携「礼文型教育連携」がこの10年余りの間に盛んになったことに伴い、長期的な視点に立った町ぐるみの教育実践が充実し、生徒は素直で優しい地域のリーダーとしても活躍している。「考える・思いやる・鍛える」の校訓のもとに、学力・体力づくりに粘り強く取り組むと共に、自分たちの力で学校・家庭・地域を明るくしようという校風が、伝統として受け継がれている学校である

校区には14の自治会があり、約700世帯全戸に対し学校便りを始めとする配布物を定期的に届ける活動を校外班ごとに続けている。年間を通して、生徒の出身校である礼文小学校・香深井小学校と行事や授業で交流を行っているほか、地域の高校である礼文高校とも進路指導をはじめとする連携を進め、相互に教育活動における協力・協同を進めている

2 学校の沿革

本校は、昭和22年に香深村立香深中学校として開校。新制中学の始まりと同時に、内路地区に分校を有する形でその歴史をスタートさせた。開校4年目に内路分校が香深村立内路中学校として独立したのを機に、昭和25年には校歌、昭和27年には校旗を制定し、学校としての礎を築いていった。十分な教育環境も整わぬまま、その歩みを始めた本校も昭和29年に新築校舎が完成。以降、体育館の新築、特別教室の増築と約10年にわたり、校舎の整備が進められた。町制施行に伴い、昭和34年に礼文町立香深中学校となり、昭和51年の内路中学校統合を経て現在の形に至る。

年号が変わり、平成9年には開校50周年記念式典を挙行し、記念誌を発行。平成26年度に校舎の一部改築が行われ現在の校舎が完成した。令和元年に学校教育目標の改訂に着手し、令和2年、新しい学校教育目標のもとにあらたなスタートをきった。

令和4年度現在、卒業生の数は4186名を数え、島内はもちろんのこと、全道・全国から、その活躍が伝えられている。

3 令和5年度 在籍生徒数

	学級数	男子	女子	合計
1 学年	1	4	5	9
2 学年	1	4	4	8
3 学年	1	7	6	13
計	3	15	15	30